

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ROYAL REVOLT	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.470	△RG	0.056	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ROYAL REVOLT

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

番 磨剤

比較対照ボール：VILLAIN

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

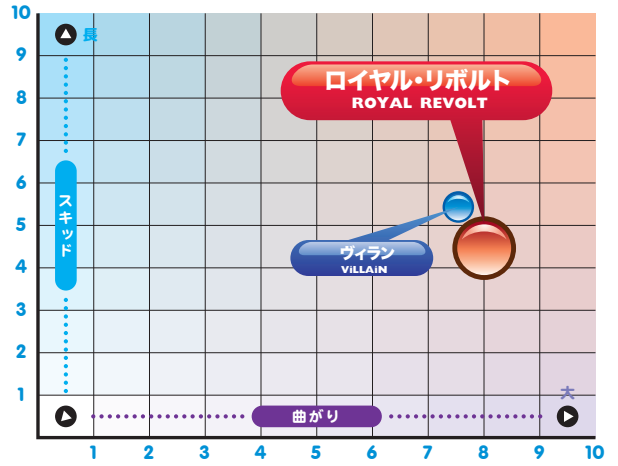
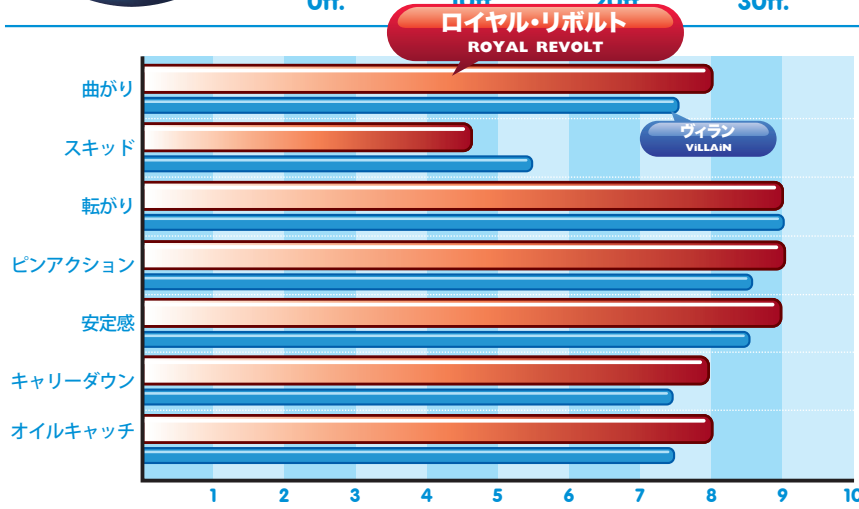
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

番 磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

昨年11月に完全復刻されたカバートリボルトはかなりの反響あるものと多めの生産をかけていましたが、予想を遥かに超えるオーダーを頂き、即日完売。MOTIV社ではすでにREVOLTシリーズの販売は終了していますが、皆様のREVOLTに対する情熱、またニーズがまだ大多数あることを再認識し、ABSボール開発チームはこれからも日本独自のREVOLTを手掛けていくことになりました。

そして今回、カバートリボルトの素材そのままに配色をRoyal Blueに変更し、「Royal Revolt」として発表する日がきました。当然素材はカバートリボルトと変わりなく、Turmoil HFS ReactiveとVanquishコアの組み合わせですが、配色をBlackからBlueに変更することでカバートリボルトよりもMidでのプレーキの利きがやや早めに感じます。

しかしMidで感じる早めのプレーキングもしっかりと最終の曲がりまで反映され、Continuousの長さが増すイメージで仕上がっています。いわゆる曲がりのイメージを変えずにフッキングを早めて、しかも曲がり終わることなく曲がり続けさせること。

単純ですがこれはなかなか容易にこのように仕上げるのは難しく、ピンヒット能力を活かしたまましかも柔らかさまでも出すことは本当に難しいです。その難しさを意図も簡単に仕上げてしまうMOTIV社のテクノロジーの奥深さも感じますが、配色だけでここまでカバートリボルトと差を出せると、恐ろしさも感じます。Midのプレーキングは曲がり始めの第一節、そこから狙いを定めたようにポケットへ引きよる軌道。「何とも言えない安定感の中に、軌道のフリップ感もピンキャリーの柔らかさもすべて含まれ、パーフェクトに倒れる」。カバートリボルトに魅了された方はRoyal Revoltで虜になるでしょう。

Blackの復刻盤に負けじ劣らずの前評判ですので、オーダーは早めが必須です。

特記事項

満を持してREVOLTシリーズの最新作のリリースです。Royal Blueを基調にCovert Revoltよりもやや早めの動き出しで安定感は抜群です。売り切れ必至ですので、各ショップにお問い合わせください。